教育研究奨励金贈呈式　資料

**教育研究サイト「GaraGaraPon!」の開発運用**

**http://garagarapon.com**

教育をサポートするツールを開発し、それらの配布と実践交流を目的とする。学校間を離れた実践交流を進めるためにＣＭＳで構築したＷｅｂサイトを開発運用し、Web上で行う新しい研究スタイル確立と、その実践を提案する。

**Team　ＧＧＰ**

　長森南中学校教諭　：　浅井健広

　鷺山小学校教諭　　：　手島達雄

**■ＧＧＰ（Ｃｏｎｃｅｐｔ）**

　ICTを積極的に活用することで、New Educational Designをめざしています。思考的にはクリエイティブシンキング。そのために精神論や、思考力の知識も勉強します。プレゼンの知識にも興味があります。組織論やマネージメントにも興味があります。ソフトの開発や、その設計の仕方にも興味があります。ＩＣＴを活用した授業実践にも興味があります。最新の周辺機器だけでなく、アナログの世界にも興味があります。

とにかく、自分達が興味あるもの全てをガラガラかき混ぜながら、新しいものを生み出す。その生み出したものをまた、ガラガラかき混ぜて次の物を生み出す…。その過程の中で日々の教育実践に取り組んでいるのがＧＧＰ。ＩＮＰＵＴ・ＭＡＫＩＮＧ・ＯＵＴＰＵＴの無限の繰り返し。その活動自体がＧＧＰの実践的研究であり、その開発室が今回構築したWebサイト「GaraGaraPon!」である。

**■実践研究実績　（S-huffleの開発例）**
既にFlash(Adobe)ソフトを使って、教育支援ソフトをいくつも

開発してきた。その一つがリピートラーニング教材作成ソフト

「S-huffle」（シャッフル）である。ＧＧＰで挑戦していることの一つに教育現場で作る「新しい教育ソフト」の開発提案がある。無償で作る。無償で配布する。そしてカスタマイズが可能であるという点は、業者ソフトにない利点となる。ただ、これだけでは本当のソフト開発は完結しない。ソフト開発は、この後が大切であると我々は考える。

例えば、最初に作ったＳ－ｈｕｆｆｌｅには、岐阜市の情報部員の先生方に利用してもらいながら、修正を何度も加えた。さらにニーズに応える形で、Ｓ－ｈuffｌｅの様々なバージョンも出来上がった。そんな折、昨年岐阜市で情報推進委員会が立ちあげられ、Ｆｌａｓｈ型教材の開発がスタートする。その会ではＳ－ｈuffleをベースに、岐阜市オリジナルソフト「リピラン」が開発されるに至る。+このソフトのＤｅｍｏの仕方、説明書などの配布物の作製も、ＧＧＰに蓄積されたideaや発想がもとになっている。来年度は、この「リピラン」をどのように広めていくのかが、この会の中心となるが、そこでもＣＭＳを使って構築・運用している本サイトのノウハウが生きてくる。今後は「リピラン」専用のコミュニティーサイトを作り、作成したオリジナル問題や活用方法などを交流する場として運用しながら、製作者と利用者をＷｅｂ上でつないでいく。

このように、教育ソフトの開発には開発後の運用体制も確立していくことが重要であるという考えが、ＧＧＰから提案する「教育ソフトつくりコンセプト」の一つである。（継続実践）
**■何でも共有・みんなでガラガラポン！**

　GaraGaraPon!に蓄積されていくデータは多岐多様である。それがソフトであったり、時にはコンセプトであったり、その形も写真や動画、テキストなど多くのメディアで記載されている。それらをすべて吸収することができるような設計が、本サイトに組み込んである。

　このサイトに知識を蓄えたり、議論する中で思考を練り直したり、多くの人と交流を深めたりすることで、更に新しいヒントや発想が生まれていく。時間的にも、行政的にも、縛りがなく「ゆる～い」状態で活動できるのが良い。既に我々の研究の仕方自体も、このサイトを活用することでクラウド化されつつある。今後は、有志を募って更にサイトの活性化を狙う。教育研究サイトの最大のコンテンツは、そこに集まった先生方の知識や経験である。これらをサイトで共有することで、新しいコトが生まれる。このようにWeb上で行う「新しい研究スタイル」を「ＧａｒaGaraPon!」の実践運用を通して提案していく事が、この研究支援のもとで我々が一番狙いたいコトである。